UNI-PEX

卓上形アンプ

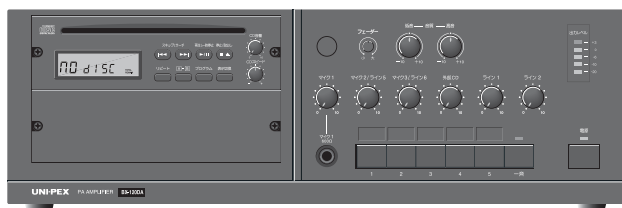
取扱説明書（保証書付）

定格出力 120W／CDプレーヤー付
BX-120DA

定格出力 120W
BX-120

定格出力 60W／CDプレーヤー付
BX-60DA

定格出力 60W
BX-60

定格出力 30W／CDプレーヤー付
BX-30DA

定格出力 30W
BX-30

CDプレーヤー付　BX-120DA/BX-60DA/BX-30DA

BX-120/BX-60/BX-30

このたびは、卓上形アンプをお買い上げいただき、誠にありがとうございました。

●ご使用前に必ず、この取扱説明書の「安全上のご注意」と取扱方法に関する説明をよくお読みの上、正しくお使いください。

●お読みになったあとは、必ず保管してください。

ご注意（BX-120DA・BX-60DA・BX-30DA）

CD-R、CD-RWなどに書込まれた音楽データについてはデータ書込みの状態、及び使用メディアの性能・品質などにより、正常に再生できない場合がありますので、ご使用に際しては充分ご注意ください。

目次

安全上のご注意　必ずお守りください

安全に正しくお使いいただくために

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例

△記号は注意(危険・警告)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。

⚠警告 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

異常が起きたときは、ただちに使用をやめる
煙が出ている、においや音がする、水や異物が入った、落として破損したなど、火災・感電の原因となります。ただちに電源プラグをコンセントから抜いて、販売店などにご連絡ください。

分解／改造はしない
火災・感電の原因となります。修理や点検は、販売店などにご依頼ください。

異物を入れない／濡らさない
水や金属が内部に入ると、火災・感電の原因となります。ただちに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店などにご連絡ください。(雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。)

通風孔をふさがない
通風孔をふさぐ、ものをのせたり通風を悪くすると内部に熱がこもり火災の原因となります。本機には内部の温度上昇を防ぐためケースに通気孔があけてあります。次のような使い方はしないでください。
○本機を横倒しや逆さま、あお向けにする。○本機を押入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込む。
○テーブルクロスを掛けたり、じゅうたん、布団の上に置いて使用する

この機器の上に花瓶など水の入ったものを置かない
こぼれたり中に水が入った場合、火災・感電の原因となります。

この機器を水滴のかかる場所に置かない
中に水が入った場合、火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

電源コードを傷つけない
電源コードの上に重いものをのせたり、無理に曲げたり、ねじったり、引張ったりすると、火災・感電の原因となります。電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線)販売店などに交換をご依頼ください。

表示された電源電圧以外の電圧で使用しない
火災・感電の原因となります。

この機器の上にろうそく等の炎が発生しているものを置かない
火災の原因となります。

雷が鳴り出したら、接続コードや電源プラグには触れない
感電の原因となります。

電源コンセントに接続する機器の消費電力の合計は、機器に表示しているW数またはA数を超えない
火災の原因となります。音響機器以外は接続しないでください。

⚠注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

湿気やほこりの多い場所、油煙や湯気が当たるような場所に置かない
火災・感電の原因となることがあります。

不安定な場所に置かない
落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

工事は工事店に依頼する
工事には、技術と経験が必要です。、火災・感電、けが、器物損壊の原因となります。工事店にご相談ください。

⚠注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

異常に温度が高くなる場所に放置しない
窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く
火災の原因となることがあります。

お手入れの際は電源プラグをコンセントから抜く
感電の原因となることがあります。

本機を電源コンセントの近くに置いて使用する
万一の事故防止のため、すぐに電源コンセントからプラグを抜けるようにして使用してください。

電源を入れる前には音量を最小にする
突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。

電源コード、スピーカーコードを熱器具に近づけない
コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

長時間音が歪んだ状態で使わない
スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

濡れた手で、電源コードを抜き差ししない
感電の原因となります。

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない
コードが傷つき、火災、感電の原因となります。必ずプラグを持って抜いてください。

電源プラグは根元まで確実に差し込む
差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。

移動するときは、コード類を傷つけない
移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。

この機器に乗ったり腰掛けたりしない
特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

オーディオ機器、外部スピーカー等の機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。

1年に一度くらいは内部の掃除を工事店などにご相談ください。内部にほこりのたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨時の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については工事店などにご相談ください。

設置・使用上のご注意

●入力線と出力線は近づけますと発振する恐れがありますので、できるだけ離して配線してください。

●直射日光の差し込む場所、温度の高くなる所には設置しないでください。また、湿度・ほこり及び振動の多い場所に設置すると故障の原因となることがあります。

●本機を雑音発生の原因になる機器※の近くには設置しないでください。

※高周波機器(乾燥機,医療機器など)、電気溶接機、ブラッシングモーター、自動車の通る道、携帯電話機、デジタル機器(コンピューター、電子楽器など)、空気清浄器。

各部の名称と説明（前面）

低音音質調節つまみ
右回りで低音が増強され、左回りで低音が減衰されます。中央のクリック位置が標準です。

マイク3/ライン6音量調節つまみ
マイク3/ライン6入力ジャックに接続された機器の音量を調節します。

フェーダー減衰量調節つまみ
右記の「オートマチックフェーダー回路について」の説明をご覧ください。（出荷時は左回しきり「小」位置に設定されています。）

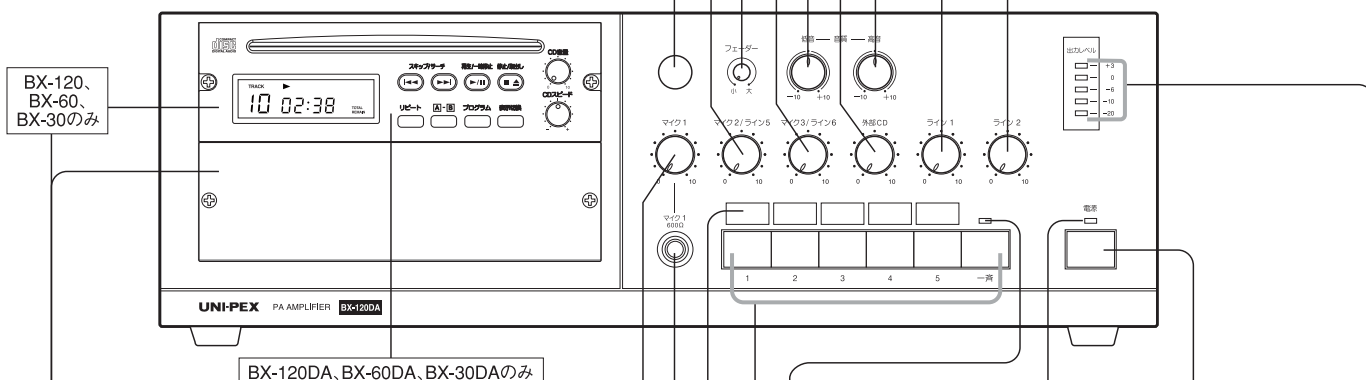
マイク2/ライン5音量調節つまみ
マイク2/ライン5入力ジャックに接続された機器の音量を調節します。

チャイム用押しボタン
（別売のエレクトロチャイムユニット組込時）
このボタンを押すとチャイムが鳴動します。

外部CD音量調節つまみ
外部CD入力ピンジャックに接続された機器の音量を調節します。

高音音質調節つまみ
右回りで高音が増強され、左回りで高音が減衰されます。中央のクリック位置が標準です。

ライン1音量調節つまみ
ライン1入力ピンジャックに接続された機器の音量を調節します。

ライン2音量調節つまみ
ライン2入力ジャックに接続された機器の音量を調節します。オートマチックフェーダー機能付です。（右記のオートマチックフェーダー回路についての項を参照）

CDプレーヤー部
P.8～13のCDプレーヤー部の説明をご覧ください。

ブランクパネル
（BX-30DA、BX-60DA、BX-120DAは下段のみ）
別売ユニットを組み込むことができます。右記の「別売ユニットについて」の説明をご覧ください。

マイク1音量調節つまみ
マイク1入力ジャックに接続されたマイクの音量を調節します。オートマチックフェーダー機能付です。（右記のオートマチックフェーダー回路についての項を参照）

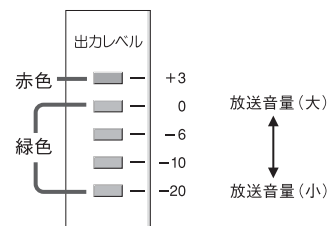
マイク1入力ジャック
（−72dBV、600Ω、電子平衡）

放送先表示部
付属の回線表示ラベルを貼ってください。

スピーカー回線選択スイッチ（1、2、3、4、5、一斉）
系統別に放送したいときは、1～5のスイッチを押してください。押した系統に放送されます。全系統に放送したいときは一斉スイッチを押してください。

一斉表示灯（赤）
一斉スイッチを押すと点灯します。

電源スイッチ
押すと電源が入ります。本機はスピーカー保護のため、電源を入れても約1秒間は動作しません。
約1秒後に次の操作を開始してください。
また、電源が入っていない状態でも待機のための電力を消費します。

出力レベル表示灯
出力レベルの表示をします。
緑色（0dB～−20dB）表示内が適正範囲です。連続して赤色（＋3dB）が点灯しないように各音量を調節してください。

電源表示灯（緑）
電源スイッチを押すと緑色に点灯します。

オートマチックフェーダー回路について

●マイク1とライン2放送時には、他の入力（外部CD/ライン1、3〜6/内蔵CDプレーヤー）の音量が自動的に減衰します。また、放送が終わると自動的に元の音量に戻ります。

●減衰量はフェーダー減衰量調節つまみで調節する事ができます。右へ回すと、減衰量が大きくなり、左へ回すと小さくなります。左回しきり位置では、減衰量が「0」になり、オートマチックフェーダー回路が働いても放送の音量は下がりません。

■初期設定の変更について

●本機内部の設定を変更することで、ライン1、3、4入力もマイク1、ライン2と同様に、放送時に他の入力の音量を自動的に減衰させることができます。

●内蔵CDプレーヤーはオートマチックフェーダー回路によって音量が減衰しない「通常」設定と動作時に被制御に設定された機器の音量を減衰させる「優先」に変更が可能です。

●詳しくはP.21の「初期設定の調整、及び変更のしかた」をご覧ください。

□オートマチックフェーダー機能設定一覧表

入力	優先	通常	被制御
マイク1	●	—	—
マイク2	—	●	—
マイク3	—	●	—
外部CD	—	—	●
ライン1	○	—	●
ライン2	●	—	—
ライン3	○	—	●
ライン4	○	—	●
ライン5	—	—	●
ライン6	—	—	●
チャイムユニット	—	●	—
ワイヤレスチューナーユニット	○	●	—
ラジオチューナーユニット	—	○	●
CDプレーヤーユニット	○	○	●
SDレコーダーユニット	○	○	●
プログラムチャイムユニット	—	●	—

優　先：信号有りで被制御の音量を減衰させる
通　常：他の入力に対して影響を受けないし、与えない
被 制 御：優先入力の信号で音量が減衰する。
●印：初期設定／○印：設定変更により可能な機能

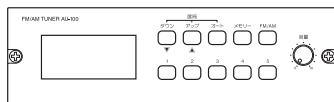
別売ユニットについて

●本機のユニット取付部（ブランクパネル内部）には別売の各種ユニットを組み込むことができます。用途に応じてユニットを追加してください。組込方法についてはそれぞれのユニットの取扱説明書をご覧ください。

●BX-30DA、BX-60DA、BX-120DAは下表のユニットを1台組み込むことができます。

●BX-30、BX-60、BX-120は下表のユニットを2台まで組み込むことができます。

■適合ユニット一覧表

・FM/AMラジオチューナーユニット AU-100

・CDプレーヤーユニット（制御機能付）AU-203

・300MHz帯ワイヤレスチューナーユニット AU-300

・プログラムチャイムユニット AU-403

・SDレコーダーユニット AU-500

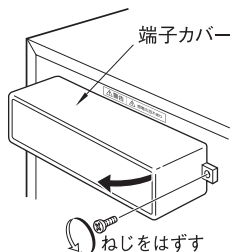
・800MHz帯ダイバシティワイヤレスチューナーユニット AU-800

AU-100（FM/AMラジオチューナーユニット）+AU-203（CDプレーヤーユニット）、またはAU-100（FM/AMラジオチューナーユニット）+AU-500（SDレコーダーユニット）の組合わせでご使用の場合

●上記の組合せの場合でAU-203、またはAU-500の電源が「ON」のときにAU-100の電源スイッチを「ON」にすると、AU-203、またはAU-500の電源は自動的に「OFF」になります。
AU-203、またはAU-500を使用するときは、必ずAU-100の電源スイッチを「OFF」にしてください。

各部の名称と説明（後面）

ブランクパネル
（チューナーユニットアンテナコネクター部）
別売のワイヤレスチューナーユニットまたは、ラジオチューナーユニット組込時に、両端のねじ2本をはずしパネルを取りはずしてください。チューナーユニット装着時この部分にアンテナコネクター部が出てきます。

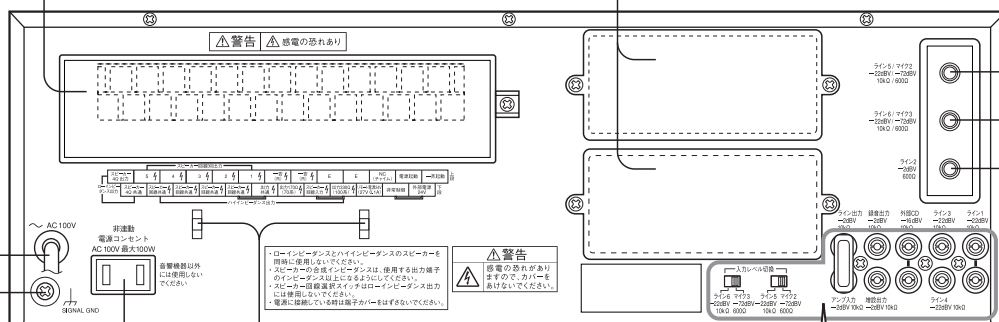
端子カバー
このカバーを取りはずすと内側に端子台があります。スピーカーなどを本機に接続されるときは、後面の端子カバーを右図の要領ではずしてください。端子板の接続が終われば必ずこのカバーを取付けてください。

⚠警告 端子カバーをはずすときは、必ず本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。ご使用中は、感電の恐れがありますので、端子カバーをはずさないでください。

ライン2入力ジャック
（−2dBV 600Ω 不平衡）
［音量調節器付／平衡トランス取付可能］
オートマチックフェーダー回路付（前頁のオートマチックフェーダー回路についての項を参照）

ライン6/マイク3入力ジャック
（−22dBV 10kΩ/−72dBV 600Ω 電子平衡）
［音量調節器付／絶縁トランス取付可能］
接続する機器に合わせて入力レベル切換スイッチを設定してください。

ライン5/マイク2入力ジャック
（−22dBV 10kΩ/−72dBV 600Ω 電子平衡）
［音量調節器付／絶縁トランス取付可能］
接続する機器に合わせて入力レベル切換スイッチを設定してください。

電源コード
電源プラグをAC100Vコンセントに接続してください。

束線バンドホルダー

電源コンセント（非連動）
音響機器以外は接続しないでください。

⚠警告 接続する機器の消費電力の合計が100Wを超えないようにしてください。火災の原因になります。また、本体機器保護用ヒューズが溶断する場合があります。

アース端子（雑音低減用）
この端子は他の音響機器などを接続した場合の雑音の低減をはかるためのものです。安全アースではありません。

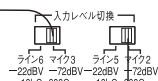
増設出力ピンジャック
（−2dBV/10kΩ 不平衡）
増設用アンプなどを接続してください。

録音出力ピンジャック
（−2dBV/10kΩ 不平衡）
カセットデッキの録音入力（REC IN）に接続してください。

ライン3入力ピンジャック
（−22dBV/10kΩ 不平衡）
ミュージックチャイムやBGMプレーヤーなどを接続してください。（P21「初期設定の調整、及び変更のしかた」を参照）

ライン1入力ピンジャック
（−22dBV/10kΩ 不平衡）
［音量調節器付］
カセットデッキなどを接続してください。ステレオ機器はL/Rチャンネルに関係なく、モノラル機器はいずれかのジャックに接続してください。

ライン4入力ピンジャック
（−22dBV/10kΩ 不平衡）
ミュージックチャイムやBGMプレーヤーなどを接続してください。（P21「初期設定の調整、及び変更のしかた」を参照）

ライン6/マイク3入力レベル切換スイッチ
（−22dBV/−72dBV）
ライン6/マイク3入力ジャックに接続する機器に合わせて切り換えてください。

ライン5/マイク2入力レベル切換スイッチ
（−22dBV/−72dBV）
ライン5/マイク2入力ジャックに接続する機器に合わせて切り換えてください。

◎切換スイッチの出荷時設定はマイク2とマイク3です。

ライン出力、アンプ入力ピンジャック
（−2dBV/10kΩ 不平衡）
グラフィックイコライザーなどを接続してください。**接続しない場合はジャンパーピンをはずさないでください。**

外部CD入力ピンジャック
（−16dBV/10kΩ 不平衡）
［音量調節器付］
CDプレーヤーなどを接続してください。ステレオ機器はL/Rチャンネルに関係なく、モノラル機器はいずれかのジャックに接続してください。

接続例

BX-120、BX-60、BX-30の場合は
CDプレーヤーユニット AU-203
BX-120DA、BX-60DA、BX-30DA
マイクロホン(有線)
・MD-56
マイク 1
800MHz帯ダイバシティ
ワイヤレスチューナーユニット
AU-800/DU-8200
マイク1入力へ
CDプレーヤー
ワイヤレスマイク
・WM-8000シリーズ
(800MHz帯)
MDまたは
カセットデッキ(録音用)
外部CD入力へ
マイクロホン(有線)
・MD-56
マイク2
スピーカー
録音出力へ
ライン5/入力
マイク2へ
ワイヤレスアンテナ
・AA-800シリーズ
マイクロホン(有線)
・MD-56
マイク3
アンテナBへ
アンテナAへ
ライン6/入力
マイク3へ
ライン6 マイク3
−22dBV −72dBV
10kΩ 600Ω
ライン5 マイク2
−22dBV −72dBV
10kΩ 600Ω
スピーカー
AC100V
コンセント
増設アンプ BZ-120
増設出力へ
PBX
一斉起動端子へ
ライン4入力へ
ページングユニット
(放送結合ユニット)
一斉起動端子へ
一斉用
リモートマイク
RMM-101
ライン1入力へ
カセットプレーヤー(再生用)
ライン2入力へ

CDプレーヤー部の説明 [BX-120DA、BX-60DA、BX-30DA]

演奏時間モード表示	演奏時間表示の内容
ELAPSED	演奏中の曲の経過時間
SINGLE REMAIN	演奏中の曲の残り時間
TOTAL REMAIN	CD全曲の残り時間

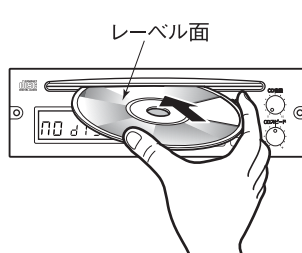
操作のしかた

> ⚠注意　電源を入れる前には各音量を最小にする。突然大きな音がでて聴力障害などの原因になることがあります。

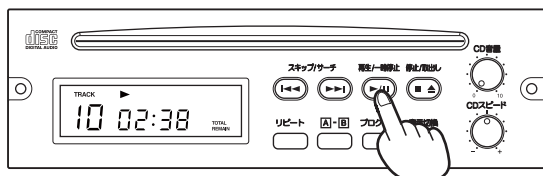
再生のしかた

1.電源を入れる

□本機の電源スイッチを押して電源を入れ､電源表示灯が点灯していることを確認してください。

2.CD挿入口にCDを入れる

□レーベル面を上にしてCDを入れると､トータルトラック及び全演奏時間を表示し停止状態になります。

3.再生/一時停止ボタンを押す

□再生/一時停止ボタンを押すたびに､再生／一時停止を繰返します。

◇すでにCDが入っているときは“TRACK”が点灯しています。CDは入れられませんので､無理に入れないでください。

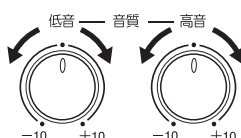
◇シングルCD(8cmCD)は使用できません。

◇CD-R､CD-RWなどに書込まれた音楽データについては､正常に再生できない場合がありますのでご注意ください。

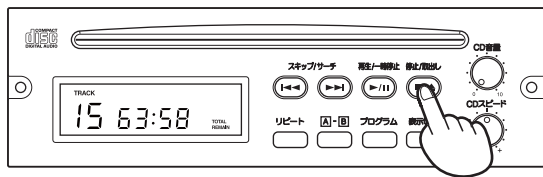
4.音量を調節する

□CD音量調節つまみを適当な位置に調節してください。

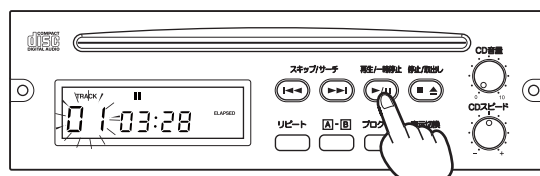
5.音質を調節する

□音質を各音質調節つまみで調節してください。

CDを取り出すには

停止/取出しボタンを押す

□停止中に停止/取出しボタンを押しますとCDが出てきます。演奏中の場合は停止/取出しボタンを押して演奏を停止してから､もう一度押してCDを取り出してください。

演奏を一時停止（ポーズ）するには

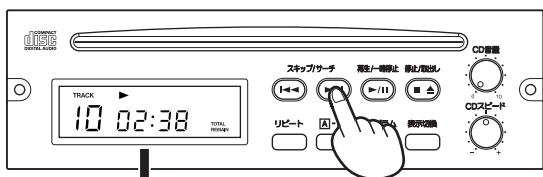
再生/一時停止ボタンを押す

□演奏中に再生/一時停止ボタンを押すと演奏が止まります。再度押すと再生します。

トラック表示が点滅

曲を選ぶには

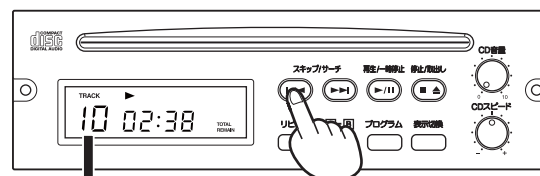
●次の曲を聴きたいときには

スキップ/サーチボタンを押す

□演奏中にスキップ/サーチボタン［▶▶|］を押すと次の曲の頭に移動し､演奏を開始します。停止中に押すと次の曲番号に表示が換わります。

※演奏中の操作例

●前の曲を聴きたいときには

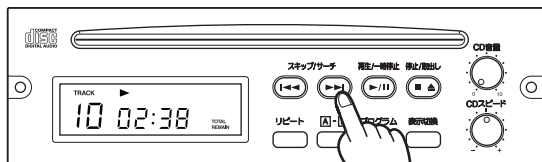
スキップ/サーチボタンを押す

□演奏中にスキップ/サーチボタン［|◀◀］を押すと演奏中の曲の頭に戻り､演奏を開始します。続けて2回押すと前の曲の頭に移動し､演奏を開始します。停止中に押すと前の曲番号に表示が換わります。

※演奏中の操作例

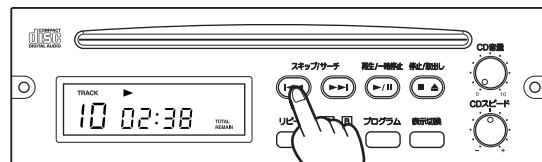
早送り／早戻しするには

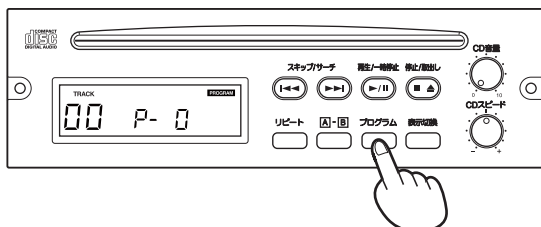
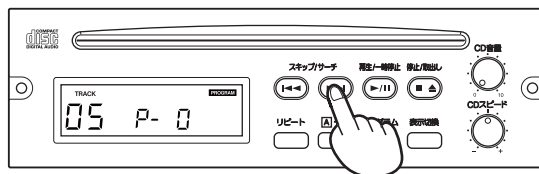
●曲を早送りするには

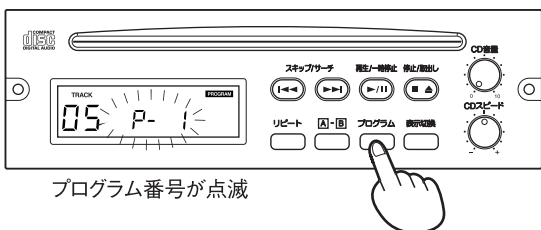
スキップ/サーチボタンを押し続ける

□2秒以上押すと早送りし、離すとその位置から演奏を開始します。

●曲を早戻しするには

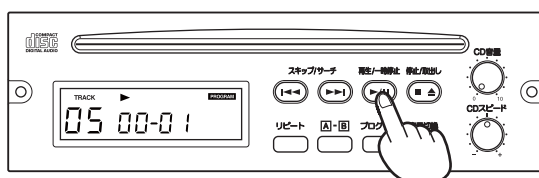
スキップ/サーチボタンを押し続ける

□2秒以上押すと早戻しをおこない、離すとその位置から演奏を開始します。

プログラム演奏をするには（演奏する曲と曲順を自由に設定する）

①停止中にプログラムボタンを押す

②スキップサーチボタンを押しプログラムしたい曲番を表示させる。

③プログラムボタンを押し曲番を登録する

②③を繰り返し最大32曲まで登録できます。

プログラム番号が点滅

④再生/一時停止ボタンを押す

プログラムした曲順で演奏します。

●プログラム内容を確認するには

登録後、プログラムボタンを押す

上記の③で登録後プログラムボタンを押すとプログラム内容を確認することができます。

●プログラム内容を解除するには

プログラム演奏中にプログラムボタンを押す

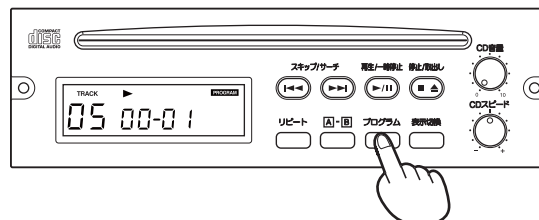
□ディスプレイの"PROGRAM"が消えて、演奏している曲から通常の演奏になります。

●プログラム内容を変更するには

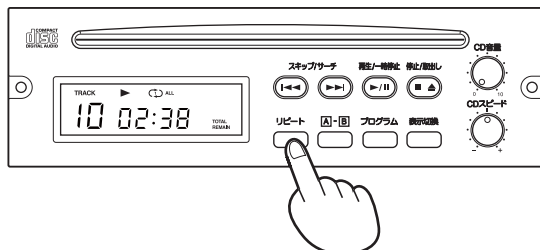
①登録後、プログラムボタンを押す

左記のプログラム内容を確認する要領で変更したいプログラム番号を選択します。

②スキップサーチボタンを押し変更したい曲番を表示させる。

③プログラムボタンを押し曲番を登録する

1曲または全曲を繰返し聴くには(リピート演奏)

リピートボタンを押す

□押すたびに 🔁1 → 🔁 ALL →無表示の順に変わります。

🔁1	1曲リピート(今演奏している曲を繰り返し演奏します。)
🔁 ALL	全曲リピート(CD全曲を繰り返し演奏します。)
	リピート解除(CDの最後の曲まで演奏します。)

◇リピート演奏について

・演奏中の曲または、CD全曲を繰り返し演奏します。

指定した部分を繰返し聴くには(A-Bリピート演奏)

注意)リピート演奏中、またはプログラム演奏中にこの設定はできません。

●A-Bリピート演奏設定例

A-Bリピート演奏区間

◆4曲目の指定した部分を繰り返し演奏

CK 3	TRACK 4	TRACK 5	TRACK 6	TRACK 7	TRACK 8
	A B				

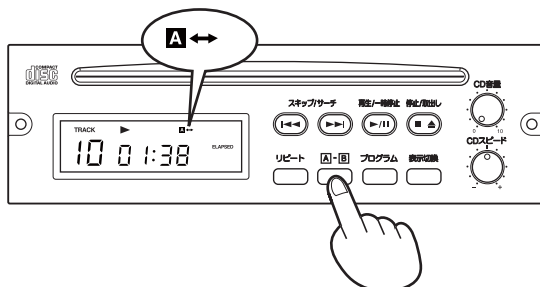
◆6曲目の頭から8曲目の途中までを繰り返し演奏

CK 3	TRACK 4	TRACK 5	TRACK 6	TRACK 7	TRACK 8
			A		B

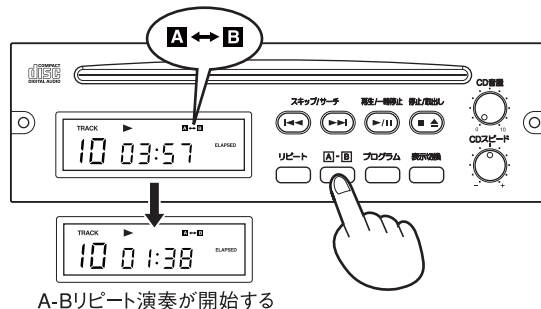
◇A-Bリピート演奏について

・演奏中のCDの指定した部分を繰り返し演奏します。(指定できる部分は連続する1区間のみ)

①A-Bリピートボタンを押す
(開始点の設定)

演奏中、繰り返したい部分の開始点でA-Bリピートボタンを押します。

②A-Bリピートボタンをもう一度押す
(終了点の設定)

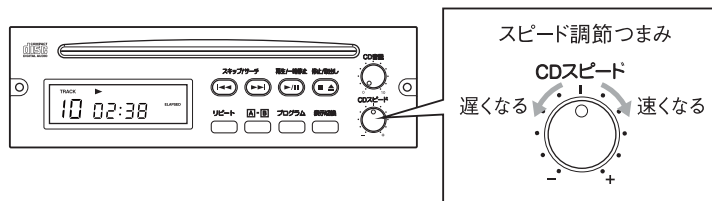
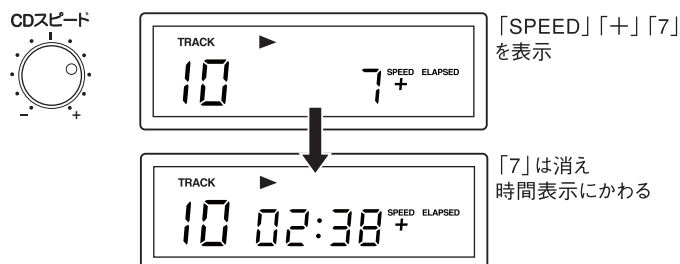
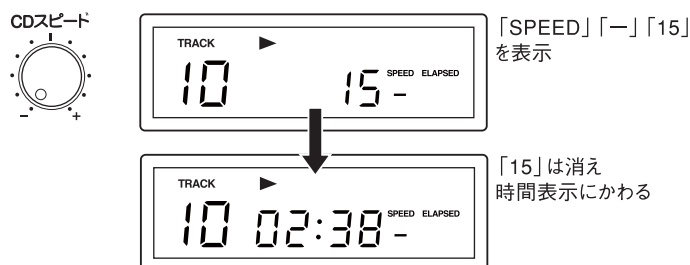
繰り返したい部分の終わりでA-Bリピートボタンを押します。その後、その区間の繰り返し演奏が開始します。

A-Bリピート演奏が開始する

●A-Bリピート演奏を解除するには
A-Bリピート演奏中にA-Bリピートボタンを押す

ディスプレイの "A-B" が消えてA-Bリピートは解除され、通常の演奏に戻ります。

演奏スピードを調節するには(CDスピード調節)

再生中にスピード調節つまみをまわす

□再生中、スピード調節つまみをまわし、演奏スピードを調節します。

例1）演奏スピードを速く（約7%）調節

例2）演奏スピードを遅く（約15%）調節

◇CDスピード調節について

・CDの演奏スピードを±15%の範囲で調節します。

◇メモ

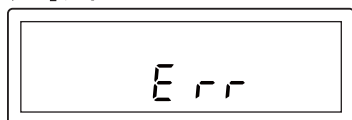
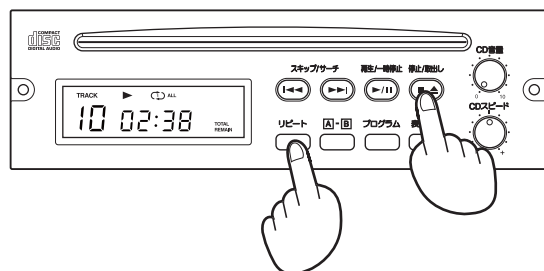
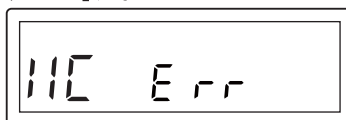
・スピード調節と同時に音程も変化します。

Err(エラー)表示の状態を解除できない場合

停止/取出しボタンとリピートボタンを同時に3秒以上押し続ける

□停止/取出しボタンとリピートボタンを同時に3秒以上押し続け、エラー状態を解除してください。

「Err」表示　　「IIC Err」表示

Err　　IIC Err

◇エラー表示（Err）について

・CDプレーヤーになんらかの原因により異常が発生した場合、Err(エラー)が表示され操作する事ができなくなります。

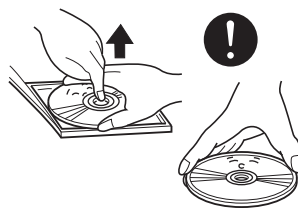
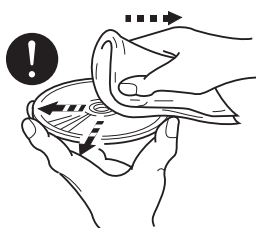
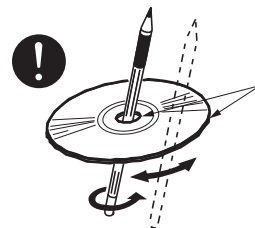
◇エラー表示（IIC Err）について

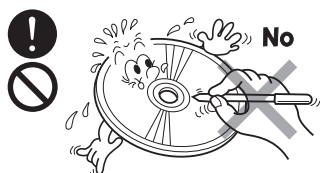
・手動操作のみで使用する場合内蔵CDプレーヤー後面のID設定スイッチを「制御」の設定で使用されますとIIC　Err(エラー)が表示され操作ができなくなります。（詳しくは21ページのID設定スイッチの説明をご覧ください。）

◇お願い

・エラーを解除しても、再びErr(エラー)が表示する場合は電源スイッチを切り、販売店などへご連絡ください。

コンパクトディスクの取扱いについて

コンパクトディスクの取り扱いかた

●保護ケースからコンパクトディスクを取り出す場合、図のようにケース中心部を押し、コンパクトディスクの両端を持ってください。また、ディスク面には直接手を触れないようにしてください。

●コンパクトディスクを拭く場合は、乾いた柔らかい布で図のように、中心から外に向かって拭いてください。

●新しいディスクには、ディスクの周囲に"バリ"が残っていることがあります。このようなディスクをご使用になると、動作しなかったり音飛びの原因となります。バリのあるディスクは、ボールペンなどでバリを取り除いてからお使いください。

コンパクトディスク使用上の注意

●ディスク面にラベルを貼ったり、鉛筆やペンなどでキズをつけたりしないでください。

●コンパクトディスクは熱に弱いので、直射日光のあたる場所やヒーターなどの近くに置かないでください。

●コンパクトディスクは、きれいなものをご使用ください。もし、汚れている場合は、乾いた柔らかい布で拭いてください。固い布や、シンナー、ベンジン、アルコールなどは絶対に使用しないでください。

●大きいキズ、変形、ヒビなどがあるコンパクトディスクは使用しないでください。誤動作や故障の原因となる場合があります。

⚠注意 **市販のCD保護シートや、スタビライザーなどを装着したディスクは使用しないでください。メカニズム内部で引掛かりなどが発生し、ディスクを傷つける場合があります。**

ご使用になる前に

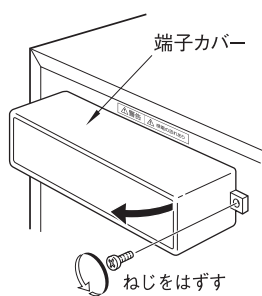
■ご確認事項

1.本機は" COMPACT disc DIGITAL AUDIO "表示のあるコンパクトディスク12cm以外のご使用はできません。CD-R、CD-RWなどに書込まれた音楽データについてはデータ書込みの状態、及び使用メディアの性能・品質などにより、正常に再生できない場合がありますのでご注意ください。

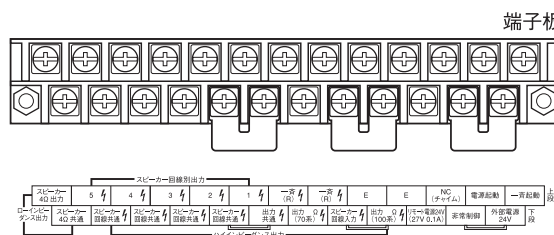
■取扱上のご注意

1. 冷えた場所から急激に温度が高くなる場所へ移動し、すぐに本機を使用すると、ディスクや光学部品が結露して正常な動作をおこなわないことがあります。ディスクが結露しているときは、柔らかい布で拭いてください。光学部品が結露しているときは、1時間ほど放置しておくと自然に結露がとれ正常に動作します。
2. 本機を傾けた状態で使用すると正常に動作しないばかりでなくメカニズム内部で引掛かりなどが発生し、ディスクに傷を付ける場合があります。
3. CD挿入口からのディスクの出し入れは無理におこなわないでください、本機の故障やディスクに傷を付ける恐れがあります。
4. ディスク走行中あるいはディスクをイジェクトしている状態で電源スイッチを切ったり、ACプラグを抜いたりした場合、ディスクが取り出せなくなることがあります。いったん電源スイッチを切り、もう一度電源スイッチを入れてディスクを取り出してください。

スピーカーの接続方法

⚠警告 機器の接続・組込・初期設定の調整、変更などは火災、感電、けが、故障の原因となりますので、必ず工事店に依頼してください。

●スピーカーを接続されるときは、後面の端子カバーを左図の要領ではずしてください。
内側に端子板があります。端子板の接続が終われば必ずこのカバーを元どおり取付けてください。

⚠警告 端子カバーをはずすときは、必ず本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。ご使用中は、感電の恐れがありますので、端子カバーをはずさないでください。

端子板

ハイインピーダンススピーカーの接続

●接続できるスピーカーは下表のとおりです。

BX-120・BX-120DA

出力端子	適合負荷インピーダンス	スピーカーの必要容量
出力83Ω（100系）	83Ω以上	スピーカー(トランス付)の合計容量が120W以内
出力42Ω（70系）	42Ω以上	スピーカー(トランス付)の合計容量が240W以内 ※1

※1 42Ω端子にハイインピーダンスのスピーカーを接続すると、スピーカーに加わる電力は表示電力の半分になります。 (例. 1kΩ 10W→5Wへ)

BX-60・BX-60DA

出力端子	適合負荷インピーダンス	スピーカーの必要容量
出力170Ω（100系）	170Ω以上	スピーカー(トランス付)の合計容量が60W以内
出力83Ω（70系）	83Ω以上	スピーカー(トランス付)の合計容量が120W以内 ※2

※2 83Ω端子にハイインピーダンスのスピーカーを接続すると、スピーカーに加わる電力は表示電力の半分になります。 (例. 2kΩ 5W→2.5Wへ)

BX-30・BX-30DA

出力端子	適合負荷インピーダンス	スピーカーの必要容量
出力330Ω（100系）	330Ω以上	スピーカー(トランス付)の合計容量が30W以内
出力170Ω（70系）	170Ω以上	スピーカー(トランス付)の合計容量が60W以内 ※3

※3 170Ω端子にハイインピーダンスのスピーカーを接続すると、スピーカーに加わる電力は表示電力の半分になります。 (例. 4kΩ 2.5W→1.25Wへ)

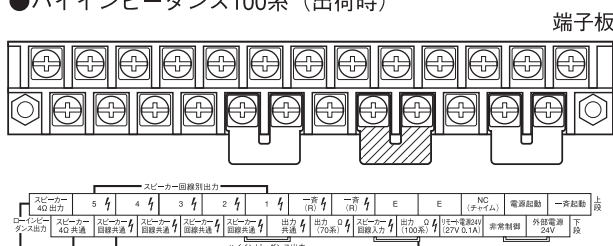
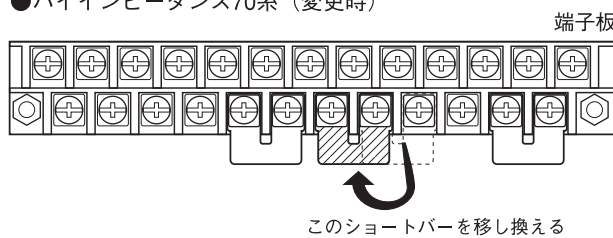
ハイインピーダンス100系から70系への変更のしかた

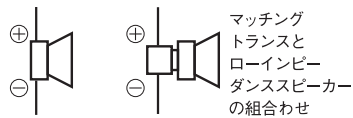
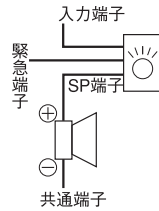
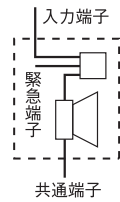
●出力（100系）ースピーカー回線入力端子間のショートバー（斜線部）を出力（70系）ースピーカー回線入力端子間に付け換えてください。（下図参照）

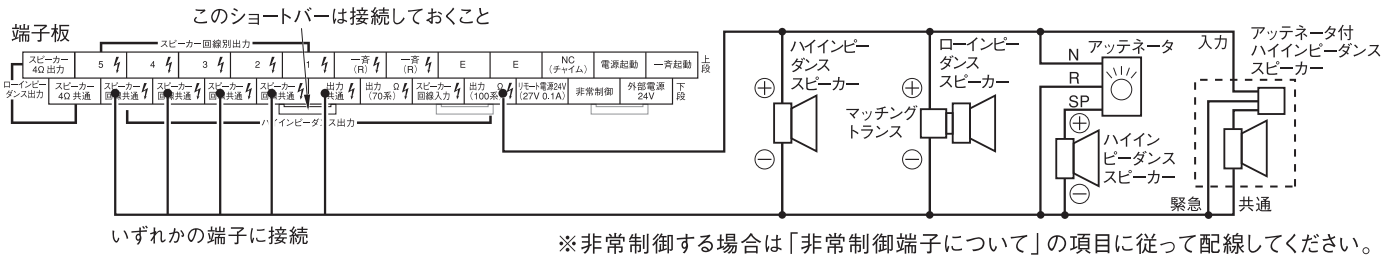
●ハイインピーダンス100系（出荷時）

端子板

●ハイインピーダンス70系（変更時）

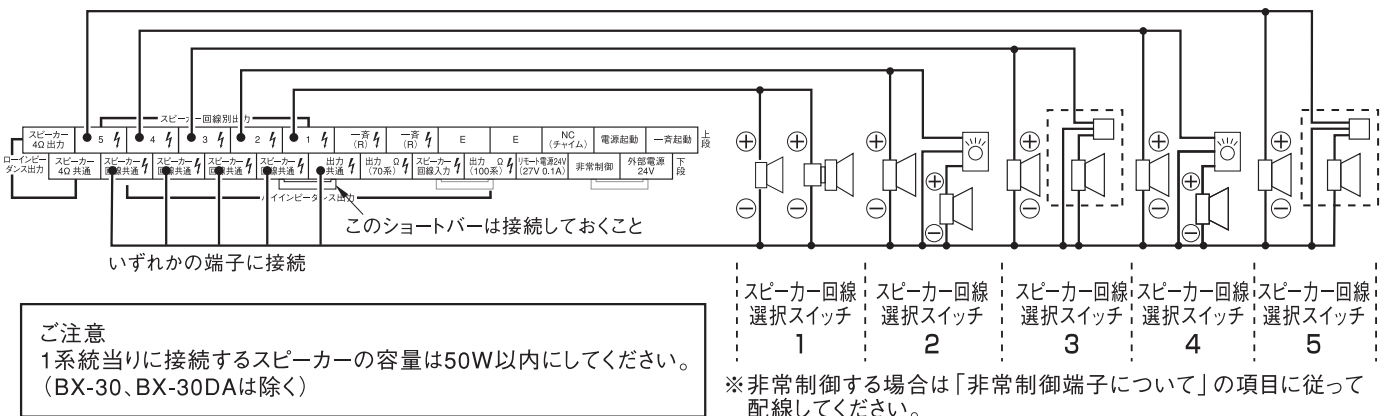
端子板

特にご注意を..
●スピーカーの合成インピーダンスが、アンプの適合インピーダンスより小さくならないようにしてください。
●スピーカーの合計W数はアンプの定格出力以下にしてください。
●ハイインピーダンススピーカーとローインピーダンススピーカーを同時に使用することはできません。
●ハイインピーダンス100系と70系を同時に使用することはできません。
●**感電に注意！**出力端子には、定格出力時に次に示す電圧がかかります。
○BX-120・BX-120DA：約100V(出力83Ω)/約70V(出力42Ω)
○BX-60・BX-60DA：約100V(出力170Ω)/約70V(出力83Ω)
○BX-30・BX-30DA：約100V(出力330Ω)/約70V(出力170Ω)

■接続するスピーカー

①1系統で放送する場合（スピーカー回線選択スイッチを使用しない場合）

※非常制御する場合は「非常制御端子について」の項目に従って配線してください。

② 系統別で放送する場合（2線式の場合）

●スピーカー回線選択スイッチで選択されたスピーカーのアッテネーターの音量が「0」位置の場合は、そのスピーカーからの放送はできません。一斉スイッチを押された場合も同様です。

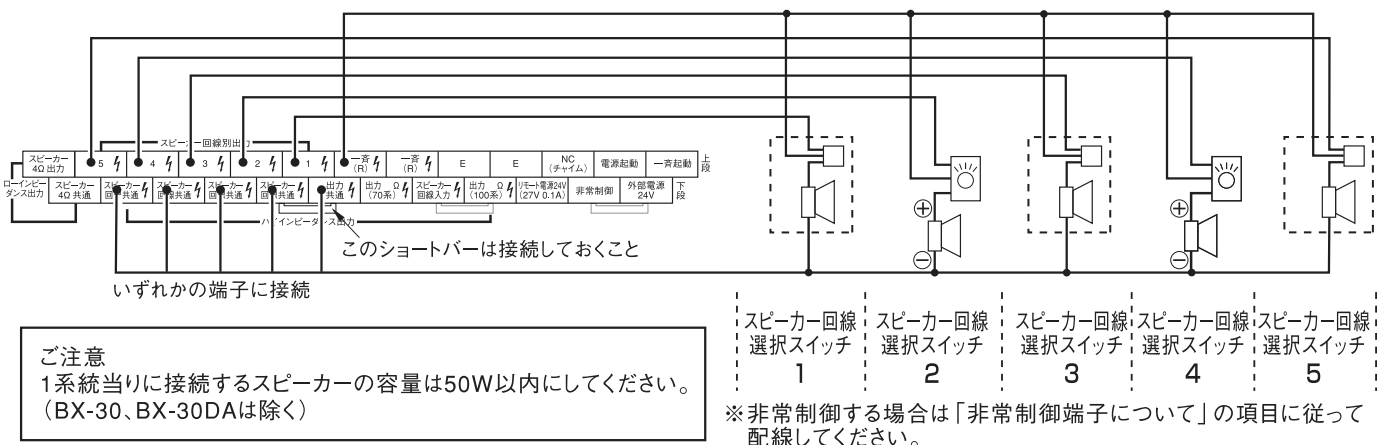
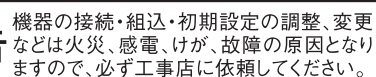
ご注意
1系統当りに接続するスピーカーの容量は50W以内にしてください。
（BX-30、BX-30DAは除く）

※非常制御する場合は「非常制御端子について」の項目に従って配線してください。

③ 系統別で放送する場合（3線式の場合）

●スピーカー回線選択スイッチで選択されたスピーカーのアッテネーターの音量が「0」位置の場合は、そのスピーカーからの放送はできません。
●一斉スイッチを押された場合はアッテネーターの音量が「0」位置の場合でも放送はできます。ただしP21に記載の要領で「通常一斉」に変更された場合は放送されません。

ご注意
1系統当りに接続するスピーカーの容量は50W以内にしてください。
（BX-30、BX-30DAは除く）

※非常制御する場合は「非常制御端子について」の項目に従って配線してください。

⚠警告 機器の接続・組込・初期設定の調整、変更などは火災、感電、けが、故障の原因となりますので、必ず工事店に依頼してください。

ローインピーダンススピーカーの接続

アンプ品番(定格出力)	適合負荷インピーダンス	スピーカーの必要容量
BX-120・BX-120DA(120W)	4Ω～16Ω	120W以上
BX-60・BX-60DA(60W)		60W以上
BX-30・BX-30DA(30W)		30W以上

■接続例

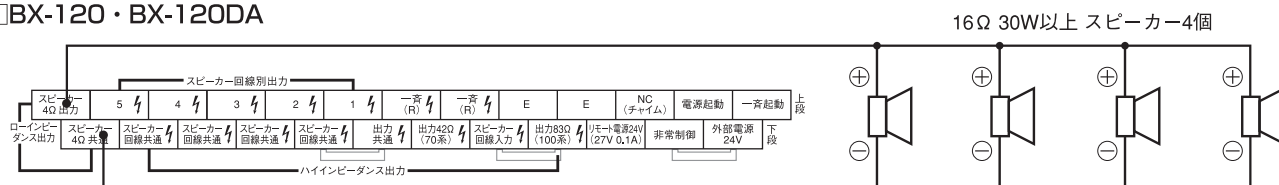
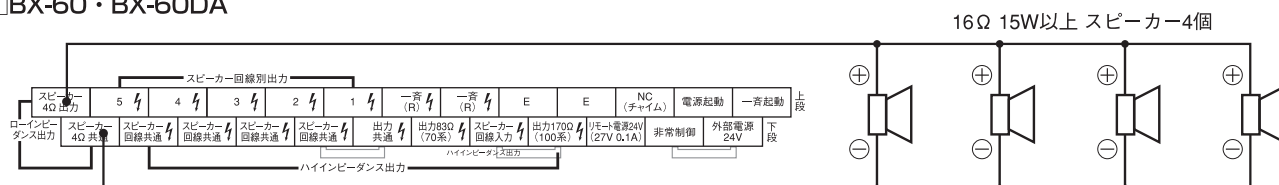
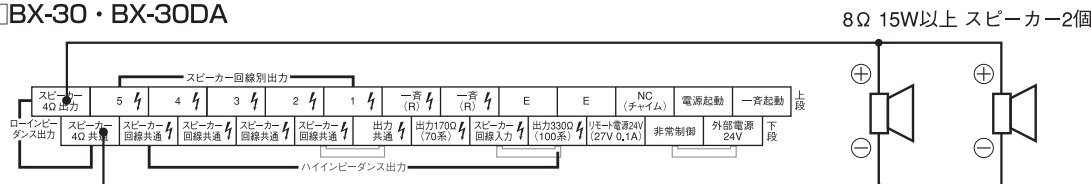
□BX-120・BX-120DA

16Ω 30W以上 スピーカー4個

□BX-60・BX-60DA

16Ω 15W以上 スピーカー4個

□BX-30・BX-30DA

8Ω 15W以上 スピーカー2個

特にご注意を..
- ●ローインピーダンススピーカーとハイインピーダンススピーカーを同時に使用することはできません。
- ●多数のスピーカーを接続するときは、全スピーカーの合成インピーダンスが4Ω以下にならないようにしてください。
- ●使用するスピーカーの定格入力は、スピーカー1個に加わる入力W数より大きいものを使用してください。

スピーカー配線材の太さと配線可能距離のめやす

ローインピーダンス(4～16Ω)の場合

芯線の太さ	φ0.9mm	φ1.0mm	φ1.2mm	φ1.6mm	φ2.0mm
距離	7m	10m	13m	23m	40m

ハイインピーダンスの場合

	芯線の太さ	φ0.9mm	φ1.0mm	φ1.2mm	φ1.6mm	φ2.0mm
BX-120・BX-120DA	42Ωの場合の延長距離	・・・・・・	90m	140m	250m	380m
	83Ωの場合の延長距離	145m	180m	280m	500m	770m
BX-60・BX-60DA	170Ωの場合の延長距離	290m	360m	560m	1km	1.5km
BX-30・BX-30DA	330Ωの場合の延長距離	580m	720m	1.1km	2km	3km

別売エレクトロチャイムユニットの取付方法

●エレクトロチャイムユニットの取付は販売店または、最寄りのユニペックス営業所にご相談ください。

①本機のカバー取付ねじ（M3×5バインドねじ））9本（両側面4本、後面3本、天面2本）をはずし、カバーを取りはずしてください。

注）はずしたねじは取付作業終了後に使用しますので紛失しないようご注意ください。

②BX-120DA、BX-60DA、BX-30DAの場合は、図Aの要領でCDプレーヤー部を取りはずしてください。

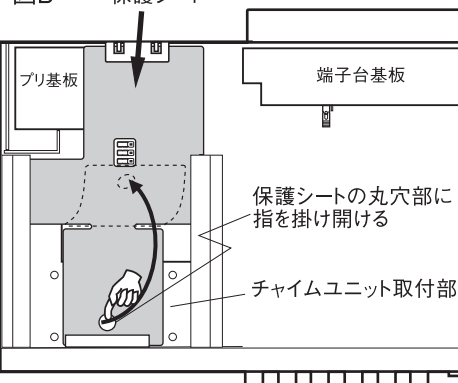
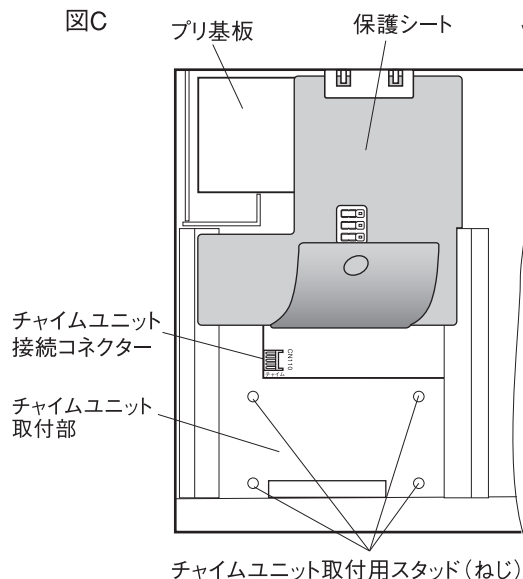
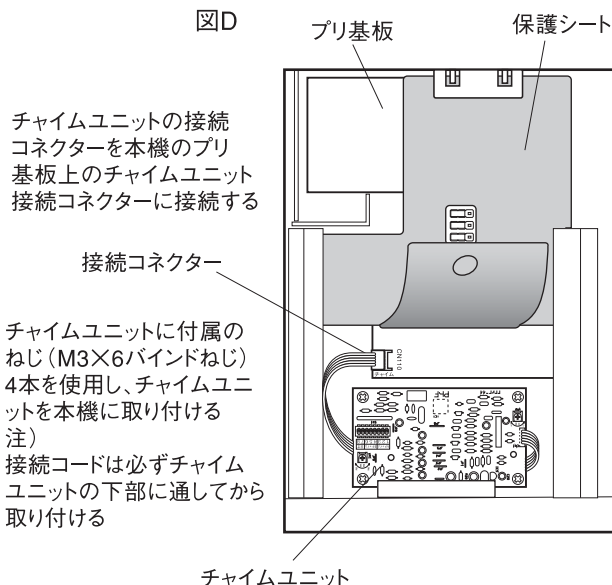
③図Bの要領で保護シートの前面パネル側を開けてください。

④チャイムユニットを本機底面部のチャイムユニット取付用スタッド（4箇所）にチャイムユニットに付属のねじ（M3×6バインドねじ）4本を使用し取り付けてください。（図C、D参照）

⑤チャイムユニットの接続コネクターを本機のプリ基板上のチャイムユニット接続コネクターに接続してください。（図C、D参照）

⑥保護シートをもとどおりに戻し、カバーを取り付けてください。（取付ねじは必ず、①ではずしたねじ（M3×5）を使用してください。）

⑦BX-120DA、BX-60DA、BX-30DAの場合は、CDプレーヤー部を元どおり取り付けてください。

⑧前面パネルのチャイム用押しボタンの上部にチャイム表示シール（チャイムユニットに付属）を貼ってください。

◎その他ご使用方法などの説明はエレクトロチャイムユニットの取扱説明書をご覧ください。

⚠警告 機器の接続・組込・初期設定の調整、変更などは火災、感電、けが、故障の原因となりますので、必ず工事店に依頼してください。

非常制御端子について

●非常用放送設備からの信号（常時DC24V受電、非常時遮断または非常時無電圧ブレーク接点）で非常時に本機の電源を「切」にすることができます。

常時DC24V受電、非常時遮断の場合

①本機の端子台の「非常制御」ー「外部電源24V」間のショートバーを取りはずしてください。
②非常用放送設備の非常外部制御端子の「24Vブレーク」「COM」を本機の「非常制御」「E」と図のように接続してください。

非常時無電圧ブレイク接点の場合

①本機の端子台の「非常制御」ー「外部電源24V」間のショートバーを取りはずしてください。
②非常用放送設備の非常外部制御端子を本機の「非常制御」「外部電源24V」と図のように接続してください。

ご注意

非常遮断制御端子の使用時以外は、ショートバーをはずさないでください。はずすと電源が入りません。

リモートマイクRMM-101及びページングユニットとの接続方法

○図のように配線してください。
○RMM-101の各スイッチを入れますと、BXシリーズアンプの電源スイッチに関係なく動作します。また本機のスピーカー回線選択スイッチの入／切状態に関係なく一斉放送されます。

BX本体のショートバーは接続しておいてください。
ただし、非常制御する場合は非常制御端子についての項目に従って配線してください。

BXシリーズ
アンプ本体

ライン4入力へ

ライン2入力へ

一斉用
リモートマイク
RMM-101

PBX

ページングユニット
(放送結合ユニット)

リモートマイクの電源をBXシリーズアンプ本体から供給される場合はアースループ回避のためシールド線を接続しません。

5回線リモートマイクRMM-105、及びリレーボックスBR-50との接続のしかた

○図のように配線してください。
○RMM-105の回線選択スイッチ1〜5、及び一斉スイッチを入れますと、BXシリーズアンプの電源スイッチに関係なく動作します。
○RMM-105より放送系統はBR-50の動作表示灯により確認できます。
○各スピーカー線の配線はBR-50よりおこなってください。BXシリーズアンプよりの直接配線はできません。
○本機の回線選択スイッチでもBR-50を制御する事ができます。

ライン2入力へ

BXシリーズ
アンプ本体

BXシリーズアンプ接続端子部

これらのショートバー
(2本)をはずしてください。

このショートバーは
はずさないください。

各スピーカーへ 4 5
N R C N R C

リレーボックス
BR-50
接続端子部

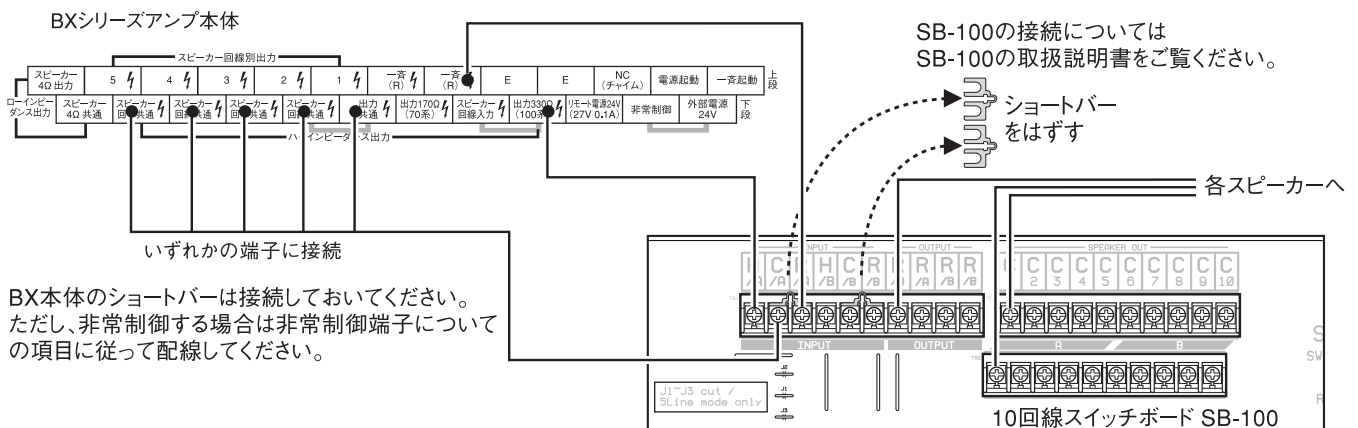
非常制御のショートバーは接続しておいてください。ただし、非常制御する場合は非常制御端子についての項目に従って配線してください。

N R C N R C N R C
各スピーカーへ 1 2 3

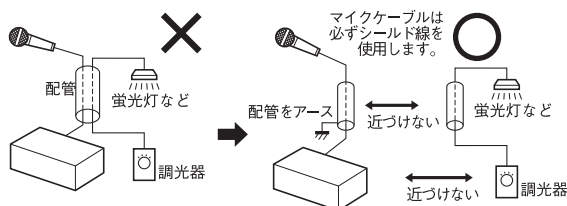
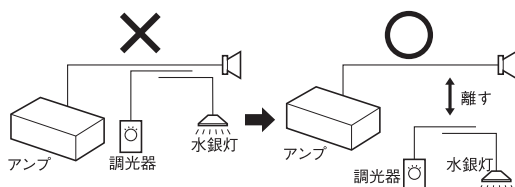
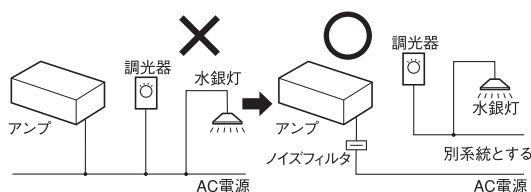
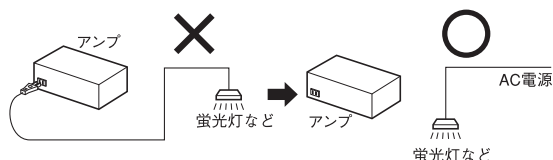
注）
BR-50と接続された場合、本機の一斉スイッチの設定は出荷時の「緊急一斉」でご使用ください。
（P21の「初期設定の調整、及び変更のしかた」をご覧ください。）

5回線
リモートマイク
RMM-105

リモートマイクの電源をBXシリーズアンプ本体から供給される場合は
アースループ回避のためシールド線を接続しません。

10回線スピーカースイッチボードSB-100との接続のしかた

ノイズ対策について

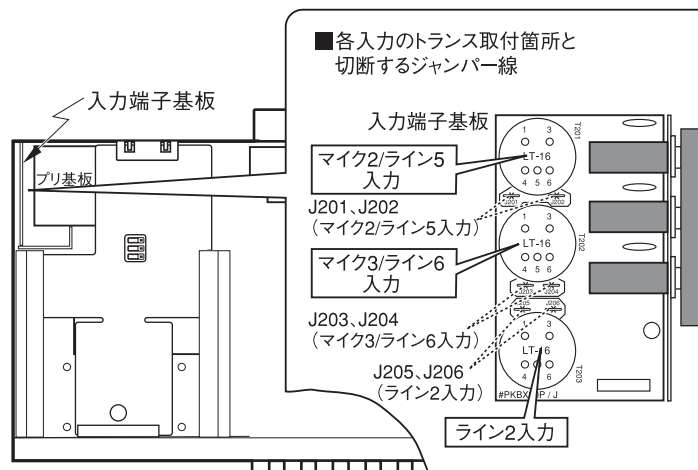
⚠警告 機器の接続・組込・初期設定の調整、変更などは火災、感電、けが、故障の原因となりますので、必ず工事店に依頼してください。

外来ノイズの影響を受けないために、配線については次のような点にご注意ください。

◆**マイクケーブル等の入力線のノイズ対策**
調光器系統、AC電源系統とは必ず別配管とし、離して布線してください。

◆**スピーカー線のノイズ対策**
スピーカー線は調光器、水銀灯などの系統線とは離して布線してください。

◆**電源のとりかた**
電源は調光器、水銀灯などの系統とは必ず別にしてください。それでも不十分な場合はアンプへのAC100V電源線にノイズフィルタを入れてください。

◆**サービスコンセントの使いかた**
サービスコンセントには、蛍光灯などの音響製品以外の機器を接続しないでください。
（容量AC100V、100W以内）

◆**携帯電話の使用について**
本機の近傍で携帯電話を使用しますと、雑音発生の原因になります。
本機を使用中に携帯電話を使用される場合は充分ご注意ください。

⚠警告
- 上記の方法で点検されても正常に動作しないとき、または使用中に急に異常が発生したときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙などの異常が無いことを確認し、販売店などへご連絡ください。
- **本機のカバーは絶対に開けないでください。感電の恐れがあります。修理は、必ず販売店などにご依頼ください。**

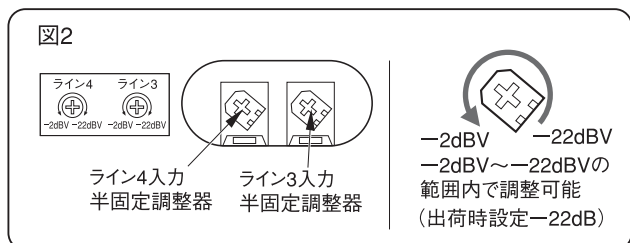
別売の絶縁（平衡）トランスの取付方法

● 本機のマイク2/ライン5、マイク3/ライン6、ライン2の各入力には別売の絶縁（平衡）トランスLT-16を取り付けることができます。**取付は販売店または、最寄りのユニペックス営業所にご相談ください。**

①LT-16を取り付ける場合は本機カバー取付ねじ9本（側面4本、後面3本、天面2本）をはずし、カバーをはずしてください。
②入力に対応するジャンパー線を切断し、トランス（LT-16）をハンダ付けしてください。（左図、下表参照）
③カバーを取り付けてください。（取付ねじは必ず、①ではずしたねじ（M3×5）を使用してください。）

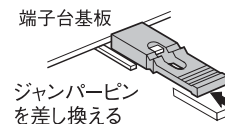
入力回路	トランス取付箇所	切断するジャンパー線
マイク2/ライン5	T201	J201、J202
マイク3/ライン6	T202	J203、J204
ライン2	T203	J205、J206

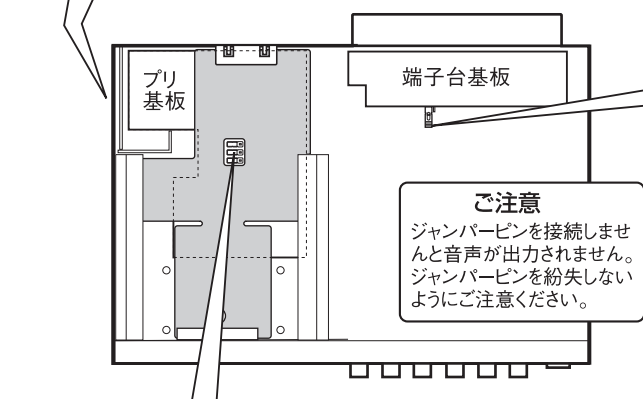
初期設定の調整、及び変更のしかた

●本機は次の設定を変更することができます。**設定の変更は販売店または、最寄りのユニペックス営業所にご相談ください。**

●設定を変更される場合は本機カバー取付ねじ9本（側面4本、後面3本、天面2本）をはずし、カバーをはずしてください。保護シートとCDプレーヤー（BX-120DA、BX-60DA、BX-30DAの場合）のはずしかたは、P17の「別売エレクトロチャイムユニットの取付方法」の説明をご覧ください。

ライン3、ライン4の入力感度を下げる場合

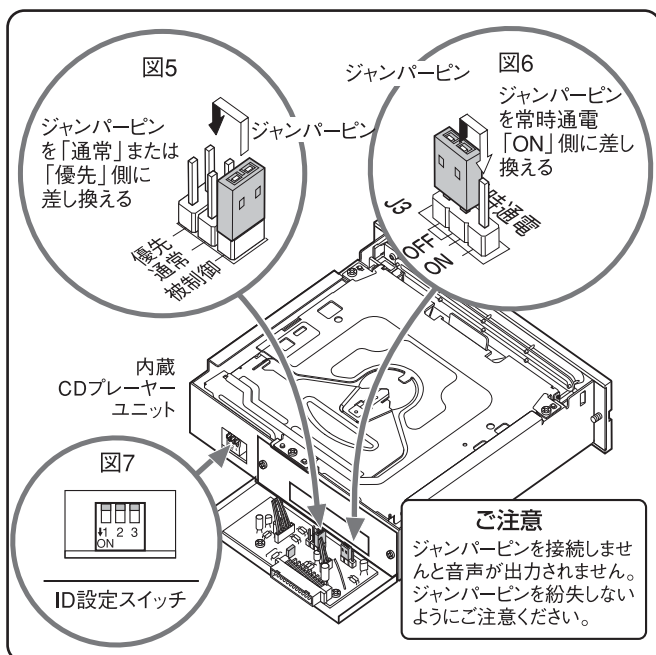
●ライン3、ライン4入力には音量調節器はありません。入力感度を下げるときは、本機内部のプリ基板上の半固定調整器で調整してください。（図2参照）

「通常一斉」に変更する場合（3線式の場合のみ）

●本機は出荷時、一斉スイッチを押したときにアッテネーターの設定音量に関係なく一定の音量で放送する「緊急一斉」に設定されています。

●一斉スイッチを押したときにアッテネーターの設定音量で放送する「通常一斉」の場合は本機内部の端子台基板のジャンパーピンを差し換えて「通常一斉」に変更してください。（図3参照）

ライン1、3、4を優先入力に変更する場合

●ライン1、3、4の各入力もマイク1、ライン2と同様に、放送時に他の入力の音量を自動的に減衰させる優先入力に変更することができます。優先入力に変更する場合は本機内部のプリ基板のジャンパーピンをそれぞれ差し換えてください。（図4参照）

内蔵CDプレーヤーを「被制御」を「通常」または「優先」に変更する場合（BX-30DA、60DA、120DAのみ）

●本機の内蔵CDプレーヤーはオートマチックフェーダー回路のはたらきで自動的に音量が減衰する**「被制御」**に設定されています。自動的に音量が減衰しない**「通常」**で使用される場合は本機後部の基板上のジャンパーピンを「通常」側に差し換えてください。または内蔵CDプレーヤーの動作により被制御に設定された機器の音量を自動的に減衰させる**「優先」**で使用される場合は**「優先」**側に差し換えてください。（図5参照）工場出荷時にジャンパーピンは**「被制御」**に設定しています。

内蔵CDプレーヤーの制御機能を使用する場合

①ジャンパーピンを常時通電「OFF」から「ON」に差し換える

●内蔵CDプレーヤー後部の基板上のジャンパーピンを**常時通電「ON」**側に差し換えてください。（図6参照）

●工場出荷時にジャンパーピンは**常時通電「OFF」**に設定しています。

②ID設定スイッチを「手動」から「制御」に設定する

●制御機能を使用される場合はID設定スイッチを**「制御」**に設定してください。（図7、下表参照）

●工場出荷時にID設定スイッチは**「手動」**に設定しています。

設定	手動（工場出荷時）	制御
ID設定スイッチ	1 2 3 ON	1 2 3 ON

ご注意　手動操作のみで使用する場合はID設定スイッチを「手動」でご使用ください。「制御」の設定または他の設定で使用されますと「IIC※ Err」表示になり操作ができません。（取り出し操作のみ可能）

※「IIC」（I^2C）は本機で使用している通信規格の略称です。

故障かな？と思われましたら

ほんのちょっとしたことで正常に動作せず、故障かな?と思うことがあります。次の要領で点検してみてください。

⚠ 警告

●次の方法で点検されても正常に動作しないとき、または使用中に急に異常が発生したときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙などの異常が無いことを確認し、販売店などへご連絡ください。

●本機は絶対に分解しないでください。感電の恐れがあります。修理は、必ず販売店などにご依頼ください。

症　状	点　検　項　目	対　策
全く動作しない	電源が接続されていますか。	電源プラグをコンセントに差し込んでください。
	電源表示灯が点灯していますか。	電源スイッチを入れてください。
	電源スイッチは入っていますか。	電源スイッチを入れてください。
	各音量調節つまみが絞られていませんか。	各音量を適当な音量に調節してください。
有線マイクの音声がでてこない	マイクのトークスイッチは入っていますか	マイクのトークスイッチを入れてください。
	マイクプラグは確実に差し込まれていますか。	確認してください。
	マイクは正常ですか。	他のマイクと交換してください。
	マイク音量調節つまみが「0」位置になっていませんか。	適当な音量に調節してください。
スピーカーから音が出ない。	スピーカーは確実に接続されていますか。	確認してください。
	ご使用の入力の音量調節つまみが「0」位置になっていませんか。	適当な音量に調節してください。
	後面のライン出力ーアンプ入力間のジャンパーピンがはずされていませんか。	ジャンパーピンを接続してください。
音がわれる	出力レベルメーターの赤色LEDが常時、点灯していませんか。	赤色LEDが常時、点灯しないように音量を調節してください。
音質がおかしい	各音質調節(低音、高音)つまみが正しく調節されていますか。	音質調節つまみの説明をよく読んで調節してください。
雑音がでる	本機やスピーカーコード、マイクコードなどがノイズを発生する機器の近くにありませんか。	ノイズを発生する機器から遠ざけてください。
接続機器の音がでない。または小さい。	接続機器及び本機側の入力音量調節つまみが「0」位置になっていませんか。	適当な音量に調節してください。
	接続機器のレベルは合っていますか。	P6の各入力の説明をご覧ください。

CDプレーヤー部　［BX-120DA、BX-60DA、BX-30DA］

症　状	点　検　項　目	対　策
全く動作しない	電源が接続されていますか。	電源プラグをコンセントに差し込んでください。
	ディスプレイ表示灯が点灯していますか。	電源スイッチを入れてください。
	FM/AMラジオチューナーユニットAU-100の電源が「ON」になっていませんか。(AU-100組込時)	AU-100の電源を「OFF」にしてください。 P5の「別売ユニットについて」ご覧ください。
	CDプレーヤー部後面のID設定スイッチを変更していませんか。	ID設定スイッチをすべて上側（OFF）にしてください。
演奏時間は進んでいるが音声がでてこない	CD音量調節つまみが「0」位置になっていませんか。	適当な音量に調節してください。
CDが入らない	本機の中にCDが入っている。	停止/取出しボタンを押して、CDを取り出してください。
CDがすぐ出てしまう	CDを裏表逆に入れていませんか。	CDのレーベル面を上にして入れてください。
CDがイジェクトできない	極端な電源変動による誤動作、または機構の誤動作。	取り出せないときは販売店などへご相談ください。ドライバーなどで無理に取り出さないでください。
音飛びする、ノイズなどが入る	CDが汚れている。	CDを柔らかい布で拭いてください。
	CDに傷やそりがある。	傷やそりの無いCDに交換してください。
音飛びする	CD-R、CD-RWを使用していませんか。	データ書込みの状態、及び使用メディアの条件などにより、正常に再生できない場合があります。 正常に再生できるものと交換してください。
CDを認識しない		

定格

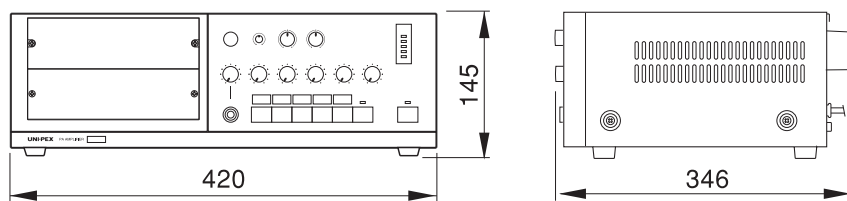
※電気用品安全法による測定方法に基づく

品番	BX-120	BX-120DA	BX-60	BX-60DA	BX-30	BX-30DA
使用電源	AC100V 50/60Hz					
定格消費電力	140W ※		95W ※		70W ※	
消費電流	AC 4.0A（定格出力時）		AC 2.4A（定格出力時）		AC 1.5A（定格出力時）	
定格出力	120W		60W		30W	
出力負荷インピーダンス	83Ω（ハイインピーダンス100系） 42Ω（ハイインピーダンス70系）		170Ω（ハイインピーダンス100系） 83Ω（ハイインピーダンス70系）		330Ω（ハイインピーダンス100系） 170Ω（ハイインピーダンス70系）	
	4Ω～16Ω（ローインピーダンス）					
ライン出力	－2dBV 10kΩ 不平衡					
録音出力	－2dBV 10kΩ 不平衡					
増設出力	－2dBV 10kΩ 不平衡					
ひずみ率	0.5％以下（ライン1 1kHz 定格出力時）					
周波数特性	50Hz～20kHz 偏差±3dB （ライン1 1kHz 定格出力－10dB時）					
音質調節	低音：100Hz ±10dB（1kHz基準） 高音：10kHz ±10dB（1kHz基準）					
入力感度及びインピーダンス	マイク1 ：－72dBV 600Ω 電子平衡 音量調節器付 マイク2 ：－72dBV 600Ω 電子平衡 ライン5 ：－22dBV 10kΩ 電子平衡 （マイク2・ライン5）音量調節器付 スイッチ切替 平衡トランス取付可能 マイク3 ：－72dBV 600Ω 電子平衡 ライン6 ：－22dBV 10kΩ 電子平衡 （マイク3・ライン6）音量調節器付 スイッチ切替 平衡トランス取付可能 外部CD ：－16dBV 10kΩ 不平衡 音量調節器付 ライン1 ：－22dBV 10kΩ 不平衡 音量調節器付 ライン2 ：－ 2dBV 600Ω 不平衡 音量調節器付 平衡トランス取付可能 ライン3 ：－22dBV 10kΩ 不平衡 半固定音量調節付 ライン4 ：－22dBV 10kΩ 不平衡 半固定音量調節付 アンプ入力：－ 2dBV 10kΩ 不平衡					
信号対雑音比	60dB以上 アンプ入力85dB以上					
スピーカー回線入力	5回線一斉付 入力容量 125V 3A以下					
動作表示	電源表示灯：LED（緑）、5ポイントレベルメーター：LED（緑×4／赤×1）、一斉表示灯：LED（赤）					
使用温度範囲	－10℃～＋50℃（オプションユニット AUシリーズ未使用時） 0℃～＋40℃（オプションユニット AUシリーズ組込時）					
付帯機能	・電源起動：無電圧メイク接点制御方式により本機の電源制御が可能（制御電流は約3mA）BXシリーズの電源起動端子と接続する事で本機より合計10台までの電源制御が可能（制御可能電流 24V 30mA） ・一斉起動：無電圧メイク接点制御方式により本機の電源制御および一斉放送制御が可能（制御電流は約36mA） ・オートフェーダー回路：マイク1、ライン2入力からの信号でその他の音量を減衰（ライン1、3、4は被制御、制御の選択可能）減衰量調節器［減衰量 最大－30dB］ ・一斉切換［緊急一斉／通常一斉切換可能］ ・チャイムユニット（別売）取付可能 ・オプションユニット（別売）2台取付可能［CD付は1台］ ・リモートマイク用電源（DC24V/最大100mA）端子					
外装	パネル（ABS樹脂）マンセルN1 近似色 ブラック ケース（鋼板）マンセルN1 近似色 ブラック 塗装仕上げ					
外形寸法	幅 420mm 高さ 145mm 奥行 346mm					
質量	約 9.6kg	約 10.5kg	約 9.0kg	約 9.8kg	約 8.2kg	約 9.1kg
付属品	取扱説明書（保証書付） 1、回線表示ラベル 1、束線用バンド 2					
適合品	エレクトロチャイムユニット、ラジオチューナーユニット（AU-100）、CDプレーヤーユニット（AU-203）、300MHz帯ワイヤレスチューナーユニット（AU-300）、プログラムチャイムユニット（AU-403）、SDレコーダーユニット（AU-500）、800MHz帯ダイバシティワイヤレスチューナーユニット（AU-800）					

●CDプレーヤー部 （BX-120DA、BX-60DA、BX-30DA）

項目	仕様
適合CD	コンパクトディスク 12cm
周波数特性	20Hz～20kHz （偏差±1dB）
スピード可変範囲	±15％
付帯機能	シングルリピート・オールリピート・A-Bリピート・プログラム再生・外部制御・自動バックライトオフ機能
表示	動作表示（液晶表示）バックライト付

外観寸法図

（単位 mm）

製造元 日本電音株式会社
発売元 ユニペックス株式会社